

平成29年度第1回 習志野市子ども・子育て会議 会議録

【開催日時・場所】

平成29年8月8日（火） 17時00分～19時00分 市庁舎3階会議室B

【出席者】

（委員）※50音順

飯島委員、飯塚委員、伊藤委員、稲垣委員、倉信委員、小西委員、臺委員、高橋委員、田久保委員、中村委員、横澤委員

（市）

竹田こども部長、小澤こども部次長、鶴沢こども保育課長、新井同課係長、伊東同課係長、秋田同課係長、家弓あじさい療育支援センター所長、安達子育て支援課長、橋本同課係長、奥井同課係長、鈴木同課係長、芹澤児童育成課長、北澤同課係長、山口ひまわり発達相談センター所長、児玉健康福祉部主幹、大久保健康支援課係長、

（事務局）

小野寺こども政策課長、藤代同課係長、松岡同課係長、小田同課主任主事、伊藤（幹）同課主任主事

【傍聴人数】

2人

【次第】

◇ 委嘱状交付式

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 委員紹介
4. 職員紹介
5. 閉会

◇ 第1回 習志野市子ども・子育て会議

1. 開会
2. 会長・副会長の選出について
3. 議題
 - （1）習志野市子ども・子育て会議の取り決め事項について
 - （2）習志野市子ども・子育て支援事業計画の平成28年度実績評価について（協議）
 - ①109事業における実績評価について
 - ②教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の実施状況について
 - （3）習志野市子どもの生活に関する実態調査について（協議）
 - （4）習志野市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて（報告）
4. その他
5. 閉会

【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 資料 1 : 習志野市子ども・子育て会議の取り決め事項
- ・ 資料 2 : 習志野市子ども・子育て支援事業計画 実績表【平成 28 年度】
- ・ 資料 3 : 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の実施状況
- ・ 資料 4 : 子どもの生活に関する実態調査について
- ・ 資料 5-1 : 子どもの生活に関する実態調査（こども用）（案）
- ・ 資料 5-2 : 子どもの生活に関する実態調査（保護者用）（案）
- ・ 資料 6-1 : 習志野市子ども・子育て支援事業計画の見直しについて
- ・ 資料 6-2 : 支給認定子どもの割合（1号認定）
- ・ 資料 6-3 : 支給認定子どもの割合（2号認定）
- ・ 資料 6-4 : 地域子ども・子育て支援事業の確保方策と実績について
- ・ 当日資料 1 : 習志野市子ども・子育て支援事業計画 平成 28 年度実績評価 概要版
- ・ 当日資料 2 : 第七中学校区における市立こども園の設置について

◇ 委嘱状交付式

○出席委員 11 名に委嘱状を交付。

◇ 第 1 回 習志野市子ども・子育て会議

1. 開会

2. 会長・副会長の選出について

互選により、会長は稲垣美加子委員、副会長は臺有桂委員が選出された。

3. 議題

（1）習志野市子ども・子育て会議の取り決め事項について

<事務局：小野寺こども政策課長>

（資料 1 に基づいて説明）

資料 1 「習志野市子ども・子育て会議の取り決め事項」に基づいて会議を運営してよろしいか伺う。

<全委員>

異議なし。

（2）習志野市子ども・子育て支援事業計画の平成 28 年度実績評価について（協議）

①109 事業における実績評価について

<事務局：小野寺こども政策課長>

当日資料 1 に基づき、「重点事業」・「効果のあった事業」について説明。また、当日資料 2 に基づき、「第七中学校区における市立こども園の設置」について説明。

<倉信委員>

【17 青少年防犯ボランティア「キラット・ジュニア防犯隊」の育成】について、キラット・ジュニア防犯隊は各学校より参加しているが、防犯意識の向上や活動で得た知識が参加者だけにとどまってい

るところがある。学校全体に活動が広がることが必要だと思う。

<飯島委員>

「キラット・ジュニア防犯隊」については、以前より広報等で啓発しているかと思う。私の子どもをみていて思うが、今の学生は部活動などで忙しく、興味があっても、参加できない場合があるのではないか。参加者が学校にて、活動報告をするなどし、率先して防犯意識等を広めていくのが良いと思う。

「77 高校進学希望者への学習支援」について、中学生は、学習の理解度の差が開いてくる時期であるため、この事業は非常にありがたい。ただ、私自身、どこで実施しているのかわからなかったため、まだまだ通いたい子たちに周知されていない気がする。また、参加希望者が、手が挙げづらくなれないよう、参加者の間口を広げてほしい。講師をする大学生にとっても、身近な教育実習のような場であり、中学生・高校生ともお互いの利益となる事業のため、広めて欲しい。

「第七中学校区における市立こども園の設置」について、対象の地区に住んでいる方にとっては、切実な問題である。行政の視点でみると、ある程度施設を集約化したいのは理解できるが、現在利用している方とこれから利用する方の意見を丁寧に拾い上げてほしい。結論ありきで進めるのはやめてほしい。

<稲垣会長>

「77 高校進学希望者への学習支援」について、こうした事業が多様に取り組みされるのは大事だと思う。「生活困窮家庭」は端的な表現ではあり、それを気にしていけなくなる子がでてしまう。子ども達のための事業が、子ども達を傷つけないように、表現に十分配慮いただきたい。

「第七中学校区における市立こども園の設置」について、子どもが集団でいることは、これから社会生活を送るうえで必要な体験であるため、広い教室に少人数の子どもがいる環境が、最適な広さなのか、子どもにとって最善なのか、よく考えなければいけない。

ただ、実際に通園している子どもや保護者にとっては、通園経路が拡大してしまうことで生活圧迫にもなる面もある。

<高橋委員>

現在開園している袖ヶ浦こども園は、袖ヶ浦西幼稚園、袖ヶ浦東幼稚園及び袖ヶ浦保育所を統合したが、その際も送迎が大変だという意見がたくさん出ていた。しっかりと、保護者の意見を聞きながら、実施してほしい。

ただ、統合前の幼稚園も園児数が少なかったが、袖ヶ浦こども園には多くの子どもが通っている。開設するまでの苦労はあったと思うが、皆さんの声をしっかりと聴きながら立ち上げたと思う。今回のこども園整備でも皆さんの意見だけではなく、その気持ちも汲みながら取り組みを努めてほしい。

「77 高校進学希望者への学習支援」について、12名の子どもが高校に進学できたことは、とてもよかったと思う。今後とも続けていってほしい。

今年の10月に保育所が開設すると聞いたが、4月の待機児童の338名の方が優先的に入所することになるのか。

<鶴沢こども保育課長>

10月からの入所希望の方だけでなく、転所希望の方すべてを公平に審査し、より優先度の高い子どもが入所となる。

<横澤委員>

菊田保育所の私立化の際、市の説明会等に参加をした。はじめは広く意見を集めていたようだが、いつの間にか場所を移転する方法での私立化が決まってしまった印象がある。

今回のこども園化では、決定するまでの過程をオープンにしていきたい。

<小西委員>

「第七中学校区における市立こども園の設置」について、現在の秋津幼稚園は通園の際、車道に出ないルートで通園ができるため、交通事故の危険性が少ない。

香澄こども園となったらどのように通うのか、心配だとの話を秋津幼稚園の保護者より聞いている。香澄に移転する場合には、安全な通園のルートを考えてほしい。

また、すばらしい園庭があるため、移転後の跡地はサークル活動等、地域の特色を活かして活用して頂きたい。

<横澤委員>

保育所の送迎時、園の門扉のストッパーを開けるが、誰でも入れるのではないかと思うことがある。以前、市立保育所に侵入者がいた事件があったが、セキュリティーについてどうお考えか。

<鶴沢こども保育課長>

門扉のセキュリティーについては、安全のため、園に入りにくくする部分と利用する保護者の手間の部分を勘案し、現在の形で実施しているが、防犯対策はとても大切だと受け止めている。

市立保育所に侵入のあった件については、保育所に侵入した際にアラームが作動し、侵入者がすぐに逃げ、実際の被害はなかった。また、犯人は逮捕されている。その件のあった以降は、アラームの作動をきちんと確認し、貴重品を鍵のあるところにしまうなど、徹底している。門扉のセキュリティーについては、改善できるのか検討し、安全安心な保育に努めていきたい。

<稲垣会長>

子ども達を守ってくれる地域の目は必要だが、犯罪に関わるようなハイリスクな目は防いでいかななくてはならない。地域住民が園児を地域の子どもとして見守り、いざ何かがあった時に、守る人達が駆けつけられるような環境を作っていくことも大事である。セキュリティーを厳重にし、子ども達を地域から孤立させてしまうのは、あまり良いことではない。犯罪者が簡単に立ち入ることのできない地域づくりとの相互性の中で、子ども達を守るために、どんなセキュリティーを担保していくのが重要である。

全事業共通して言えることだが、効果的な事業があっても、関心を持ってもらえないと、広がっていないため、委員の皆さんも広報を担い、それぞれの団体に御報告頂きたい。

大学生も経済的な問題を抱えており、学費のためにアルバイトをしている状況がある。新しい施策を作る際は、無償のボランティアではなく、有償で、参加する人も自分たちの暮らしを立てられるような方策を立てていかないと厳しいと感じている。

事業を実施するにあたり、希望のかなわなかった方たちがいた場合は、その方をフォローできる別の施策はないか考え、少数の意見を無視することのないようにしてほしい。行政だけではなく、我々、委員も知恵を出していかなくてはならない。

②教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の実施状況について

<小野寺こども政策課長>

資料3に基づき、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の実施状況について説明。

<田久保委員>

資料について、事業に関わる保護者は見れば理解できると思うが、事業に関わっていない保護者からすると、事業がどのようなことをやっているのか、実績がどう変わったのか、分かりづらいと思う。

<稲垣会長>

専門に勉強している学生でさえ苦戦する内容かと思う。子ども・子育て会議は当事者が参加している会議であり、また、新任委員が理解しやすいように、次回の会議の際には、分かりやすい補足の資料を準備するなど、配慮をしていただきたい。

<高橋委員>

放課後児童会は全ての小学校で実施しているのか。また、上学年の児童はあまり通いたがらない場合があると聞かすが、どのくらい上学年の利用があるのか。

<芹澤児童育成課長>

全ての小学校で実施しており、原則、小学校の敷地内に児童会を置いている。児童が多い地区については、複数の児童会を設置しており、16の小学校に、22の放課後児童会がある。

小学校4年生～6年生の上学年については、平成29年7月の時点で56名入会しており、お受けできなかった不承諾の方は、60名である。

<稲垣会長>

上学年については、自分で自由に遊びができてしまうため、プログラムを工夫するなど、子ども達が家にこもってしまわないためのアプローチを考えなくてはいけないのかもしれない。

また、障がいがあるなど、一人で家庭で過ごすことが難しいお子さんは、子どもにとって居心地がよく安心でき、そして保護者にとっても安心な場所をつくることで、子ども達の社会参加につながると感じた。

<小西委員>

放課後児童会について、支援員が不足している原因の一つに、習志野市と他市の支援員の待遇の違いがあるという意見がある。支援員の待遇について、習志野市と他市や近隣の県との違いがわかる比較の表を、次回の会議で準備していただきたい。

<稲垣会長>

以前の会議でも議論にあがったが、支援員の給与の安さや、正規就労ではない短時間の仕事のため、仕事をしたい学生がいても、従事しにくい現状がある。短時間の仕事をどうフルタイムの仕事にするのか、大きな問題点だと考える。逆に、短時間就労だからこそ自分を生かそうと思ってくれる層がいるのであれば、吸い上げるアナウンスや、短時間労働のメリットをアピールできれば、改善できるのではないかと。

小西委員要望の資料については、御準備いただきたい。

(3) 習志野市子どもの生活に関する実態調査について (協議)

<小野寺こども政策課長>

資料4・5に基づいて、習志野市子どもの生活に関する実態調査の概要及び調査方法について説明。

<倉信委員>

調査にあたり、十分配慮をしていただいているため、学校としての要望は現時点ではないように思う。

<田久保委員>

分析をしっかりとやってほしい。子ども用の調査票は回答しやすいと思うが、保護者用の質問票は、選択肢が多いため、答えるのが大変そうな印象である。

<臺副会長>

小学5年生・中学2年生の全数調査でなくても、全体の2分の1や3分の1の調査でも十分な調査結果は得られると思う。調査のしやすい形での実施を検討してほしい。

<小野寺こども政策課長>

アンケートの素案については、委員からの意見を踏まえた上で会長・副会長と協議をし、確定させ、その結果について委員に報告したいと考えているが、いかがか。

<小澤こども部次長>

習志野市子ども・子育て支援事業計画を策定するにあたり、子ども達の視点を計画に盛り込むために子どもを対象とした「子どもの満足度調査」を平成26年に実施している。今回の調査は、子どもと保護者を対象に、生活実態を踏まえ、生活困窮まで掘り下げたアンケートとし、その結果を次の計画の施策に結び付けたいと考えている。

<稲垣会長>

アンケート調査は、いろいろなことが分かることを期待をしてしまいがちだが、調査で分かることは一部のため、今回調査したい柱を明確にし、それに必要な質問事項を立案する必要がある。委員から意見をいただき、副会長と一緒に確認をし、事務局と共に調査票の内容を決定したいがいかがか。

<全委員>

異議なし。

(4) 習志野市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて(報告)

<小野寺こども政策課長>

資料6に基づき、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業について、報告。次回会議時に、見直し案について示す旨説明。

<飯塚委員>

待機児童について、自治体によってカウントの仕方が違うようなので、待機児童の定義の変化や、実際の不承諾者の数と待機児童の差が分かる資料があるとありがたい。

<伊藤委員>

この会議に参加してはじめて、学習支援事業について知った。金銭的に塾に行かせられない母子家庭の方もいると聞く。もっと分かりやすい形で周知することで、助かる人がたくさんいると感じた。

<中村委員>

家で私設の図書館である家庭文庫を週に1回2時間実施しており、そこで出会う学生の多くは携帯電話を持っており、ツイッターやインスタグラムを利用している。習志野のキャラクターであるナラシド♪発信の、子ども達向けのものをやってみたら、子ども達に届くのではと感じた。

【所属課】

こども政策課

電話番号：047-451-1151 (内線 442、433)

FAX 番号：047-453-5512